		2	学年・期間・区分	3年次・ 通年・必修		
	平成 27 年度 シラバ	12	対象学科・専攻	都市環境デザイン工学科		
			担当教員	堤 隆 (Tsutsumi, Takashi))	
				内田 一平 (Uchida, Ippei	i)	
				毛利 洋子 (Mouri, Yoko)		
	土質工学実験		教員室	堤 : 都市環境デザイン工学科棟2階 (TEL: 42-9019)		
(Experiments in Solid Mechanics)			内田:都市環境デザイン工学科棟2階(TEL: 42-9117)			
(Experiments in Solid Medianies)			毛利:都市環境デザイン工学科棟3階(TEL: 42-9121)			
		E-Mail	堤 : tsutsumi@kagoshima			
			内田: uchida@kagoshima-o	ct.ac.jp		
				毛利: mouri@kagoshima-c	t.ac.jp	
	所態/単位の種別/単位	数	実験/履修単位/1.5 単	•		
週あ	たりの学習時間と回数		〔授業(135分)〕×15	回 ※適宜、補講を実施	する	
			と良く理解し、機器、具操作や 組み入れ実験持意義を徹底され		定値得る	ること目標とし、かつ、地
[4	「科目の位置付け」 土質	工学実験	で学習した知識は、土質力学は	および地盤工学を理解させる	うために,	必要である
[4	学習上の留意点〕 土質実際	験は、土	質力学と平行して各実験項目が	ぶ実施されるように配置され	ている。	実験前日までに準備レポ
	、を作成提出					
[授	受業の内容]					
	授業項目	時間数	授業項目に対す	一る達成目標	達成	予習の内容
1.	年間授業計画の説明及	3	年間授業計画の説明と実験(2.~5)の説明及び技術倫理		・配布資料の精読
	び技術倫理					
2.	土の含水量と土粒子密	3	□ 含水比の測定方法と定義	を理解する。また、土粒子		・実験書 PP.11-15 及び配付
	度試験		密度の定義と試験方法を理	I解するとともに試験を理		参考資料精読
			解することができる			
3.	土の液性・塑性試験	3	□ 土の種類により液性・塑性	生試験を理解するとともに		・実験書 pp.25-29 及び配付
			試験方法とコンシステンシ	/一限界を考察することが		参考資料精読
			できる。			
4.	土の粒度試験	3	□ 土の粒度試験と工学的分類	貳式方法を理解する。		・実験書 pp.16-24 及び配付
						参考考資料精読
5.	土の突固め試験	3	□ 土の突き固め試験の試験			・実験書 pp.63-68 及び配
			種類、粒径による締め固め	特性の変化を考察できる。		付参考考資料精読
6.	実験説明	3	実験 (7.~10)の説明とデータ	整理の説明		・配布資料の精読
	4.1		- Alexandra Arra - Abra Lavi			
7.	一軸圧縮試験	3	□ 一軸圧縮試験の試験方法。	と土の分類とモールの応力		・実験書 pp97-103 及び配付
		_	円について説明できる			参考考資料精読
8.	CBR 試験	3	□ 強度 CBR と設計 CBR と修	止CBRを求める試験方法と		・実験書 pp.119-129 及び配
	70 10 db db 3 NEA		試験に対する考察ができる	N#Λ \		付参考考資料精読
9.	現場密度試験	3	□ 砂置換による現場密度の試	 販万伝と試験に対する考察		・実験書 pp.131-138 及び配
10	₩. 1.34FΔ	_	ができる	₹_1.34EA		付参考考資料精読
10.	透水試験	3	□ 定水位透水試験と変水位は	透水試験の試験万法と試験		•実験書 pp.69-75 及び配付
11	宝 輪説明	2	結果に対して考察できる。 実験(12~15)の説明とデータ	★		参考考資料精読 ・配布資料の精読
11			一 王ഐ ロアンロル 帰足的 とチーダ	2221月17日 月間 日日	1	- * ヒワi : /TT '目' * * * * * * * * *

□ 一面せん断試験の試験方法と試験結果を考察できる

□ 非排水、排水試験などの試験データを整理でき、試験

□ 鹿児島県内から風化したしらすなどの地盤改良が考察

□ これまでの試験結果を整理し、データチェックを行う。 □ これらのデータを鹿児島県内の地図にプロットできる。

□ 三軸圧縮試験方法と試験結果を説明できる。

·実験書 pp.87-96 及び配付

・実験書 pp.104-118 及び配

・参考書(地盤材料試験の方

法と解説)pp.409-435 を精読

参考考資料精読

付参考考資料精読

・参考資料を精読

〔教科書〕土質試験基本と手引き 地盤工学会 地盤工学会

3

3

3

〔参考書・補助教材〕 土質力学 赤木知之他4名 コロナ社 地盤材料試験の方法と解説 地盤工学会

結果を考察できる。

できる。

[成績評価の基準]実験レポート (80%) +授業態度

12. 一面せん断試験

13. 三軸圧縮試験

14. 安定処理試験

15. データの整理と鹿児島

県内のしらすの特性

[本科(準学士課程)の学習・教育到達目標との関連]	1-b, 3-c, 4-a
[教育プログラムの学習・教育到達目標との関連]	
〔JABEE との関連〕	
〔教育プログラムの科目分類〕	

<u>Memo</u>

平成 27 年度 シラノ	ミフ	学年・期間・区分	3年次 · 通年 · 必修		
十成27 千度 ング		対象学科・専攻	都市環境デザイン工学科		
++ vi ch ch ch		担当教員	池田 正利(Ikeda, Masato	oshi)	
材料学実験 (Experiments in Civil Engi	accring)	教員室	池田: 都市環境デザイン	工学科棟:	2階(TEL: 42-9120)
(Experiments in Civil Engli	iccinig)	E-Mail	池田: m-ikeda@kagoshim	a-ct.ac.jp	
教育形態/単位の種別/単位	数	実験 / 履修単位/ 1.5	実験 / 履修単位/ 1.5単位		
週あたりの学習時間と回数		〔授業(135分)〕×15回	□ ※適宜、補講を実施す	- る	
〔本科目の目標〕 試験方法(の内容を	と良く理解し、機器、器具の操作	Fや取り扱いに熟知して、I	Eしい測定	値を得ることを目標とし、
地域学校の特殊性による適切	な内容も	組み入れ実験の持つ意義を習得	計する。		
〔本科目の位置付け〕 土木	材料の基	基本的な物理特性を把握できるよ	こうにセメント、骨材、鋼材	(等につい)	て基礎実験を行い、4年次
における鉄筋コンクリート実					
		担当者から実験レポートの提出	の指示があるので、指示さ	れた日時	まで必ず提出すること。実
験準備は実験前日に行うこと。)				
[授業の内容]	ı				
授業項目	時間数	授業項目に対す	る達成目標	達成度	予習の内容
1. コンクリート材料の特性	3	□ セメントや骨材の性質を理解	解し、説明できる。		pp.1-5 の教科書を読んで
(実験説明)					概要を把握しておく。ま
					た、2年次の材料学の概要
2. セメントと木材の	3	│ │ □ モルタル及び木材の強さを	知ストレができる		を把握しておく。 ・ pp.17-20 の教科書を読ん
強き試験	J		AHOUCEN COO		で概要を把握しておく。
JAC H-WOX					pp.23-45 の教科書を読ん
3. 骨材の物理試験	9	 □ 骨材のふるい分け試験 、電	計材の単位容積実績率試験		で概要を把握しておく。
1,		や細骨材の比重・吸水率試験			1,212,22
		た粗骨材の比重・吸水率試験	険、細骨材の表面率試験を		
		実験することにより、コンクリー	ート用骨材の諸特性を理解		・ pp.67-77 の教科書を読ん
		できる。			で概要を把握しておく。
4. コンクリートの配合設計	6	□ 配合手法を理解し、設計でき	きる。		・ pp.78-89 の教科書を読ん
			ar labarra mabrilar ma		で概要を把握しておく。
5. コンクリートの混練り	6	□ 空気量試験、スランプ試験			3 年前期次の鉄筋コンクリ
C → V クリー 1 1 分析体の	0	通して、フレッシュコンクリート			ート工学 I の概要を把握し ておく。
6. コンクリートと鉄筋の 特性	3	□ コンクリートと鉄筋の特性を理	生胜し、就明できる。		・ pp.61-89 の教科書を読ん
(実験説明)					で概要を把握しておく。
7. コンクリートの圧縮試験	6	 □ セメント水比の関係式の算	出、圧縮強度の測定を通し		・pp.109-114 の教科書を読
1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1		て単位水量一定の法則を理解			んで概要を把握しておく。
8. 鉄筋の引張試験	3	□ 鉄筋の降伏点、引張強度の			・pp.49-52 の教科書を読ん
		通して鉄筋の物理特性を理解	弾できる。		で概要を把握しておく。
9. 塩分含有量試験	3	□ 滴定による分析法を理解でき	きる。		・pp.90-94 の教科書を読ん
					で概要を把握しておく。
10. コンクリートの弾性係数	3	□ コンクリートの弾性係数測録	官を通して弾性係数比や応		
測定		力とひずみの関係を理解でき	さる 。		
〔教科書〕 建設材料実験法	建設材	料実験教育研究会			
〔参考書・補助教材〕 適宜	プリント	、 を配布する			
〔成績評価の基準〕 実験提	出レポー	- h (100%)			
〔本科(準学士課程)の学習	教育到達	陸目標との関連〕 1-b, 3-c, 4	-a		
〔教育プログラムの学習・教	育到達目	標との関連]			
[JABEE との関連]					
〔教育プログラムの科目分類]				
Мето					

平成 27 年度 シラバス	学年・期間・区分	3年次 ・ 通年 ・ 必修
平成27年度 シノハス	対象学科・専攻	都市環境デザイン工学科
	担当教員	岡松 道雄 (Okamatsu, Michio)
設計演習		毛利 洋子 (Mouri, Yoko)
(Design and Drawing Studio)	教員室	都市環境デザイン工学科棟3階(TEL: 42-9122)
	E-Mail	okamatsu@kagoshima-ct.ac.jp
教育形態/単位の種別/単位数	講義・演習 / 履修単位	7 / 3単位
週あたりの学習時間と回数	〔授業(135分)〕×30	回 ※適宜,補講を実施する
〔本科目の目標〕 1・2年次の専門講義と製	図の基礎的な知識を習得し	たことを踏まえて、本格的な製図及びエスキース、そして課題の
作成を目標とする。講義前半は、日本及び世界	界の優れた作品を概観し、そ	その中から選んだ作品の模写を行うことで作品の優れた点を肌で
覚える。後半は本校周辺に実在する敷地に自	作を設計し、地域の特性を	踏まえた作品として仕上げることを目標とする。
〔本科目の位置付け〕 土木・建築そして	都市デザインの主要分野に	工共通する、設計とデザインの素養を身に付けるため、近現代
において優れている建築作品を模写すること	とから発案および建築設計	の基礎を学ぶ。秀作・名作を深く知ることによって学生の制
作音欲を喚起! 冬白のオリバナリティを記	リキ川ナ機会レ位器ベけて	108

[学習上の留意点] 本科目は講義・演習形式で行う。オリジナルの作品を作ることは、独自の着想と粘り強い作業を必要とすることが多 い。またデザインは生まれつきの素養によるところもあるが、過去の事例に学び、9割以上はコツコツと地道な作業を積み重ねて、構築物 の安全性や機能・性能を追求し、各部の要素を統合する行為でもある。途中で投げ出さずにイメージした空間や形態を、最終的に図面と して表現するように取り組む姿勢が大切である。本科目は演習形式の講義であり、3人の担当教員が分担して指導する。

[授業の内容]				
授業項目	時関数	授業項目に対する達成目標	達成	予習の内容
1. 設計演習ガイダンス	3	□ 年間課題と学習目的を説明できる。		シラバスを読み、演習の概要
2. 模写作品紹介・研究	3	□ 模写課題作品について紹介・優れた点を説明できる。		を把握しておく。
3. 製図基礎復習・作図練習	3	□ 基礎製図 I II の学習内容を復習し、模写の準備がで		あらかじめ配られた資料の概
		きる。		要を把握しておく。
4. 名作模写(1) 平面図	6	□ 名作と呼ばれる作品の平面について模写できる。		
5. 名作模写(2) 断面図	6	□ 名作と呼ばれる作品の断面について模写できる。		
6. 名作模写(3) 立面図・	6	□ 名作と呼ばれる作品の立面・配置図について模写でき		
配置図		ි		
7. パース作成・模型の知識	6	□ 模写作品をもとにパースを作成できる。		
8. 模型作成	9	□ 模写作品をもとに模型を作成できる。		
9. 前期講評	3	□ 前期の作品(図面・パース・模型)について担当教官か		
		ら講評を受け、今後の課題として把握する。(非評価項		
		目)		
夏休み課題		夏休みを利用し、都市・環境・土木・建築・インテリアいずれ		
「都市環境レポート」		かの分野に係わる既存の施設・構造物作品について、ポ		
		ートフォリオにまとめ夏休み明けに提出		
10. 夏休み課題講評	3	□ 夏休み課題について担当教官から講評を受け、今後		
		の課題として把握する。(非評価項目)		
11. 課題説明・現地調査	3	□ 設計課題の説明を理解し、現地調査の方法を説明でき		
		ි		
12. 調査結果のまとめ・報告	6	□ 敷地を視察した結果をまとめ報告することができる。		
13. 草案作成および批評(1)	6	□ 課題説明および現地調査をもとに草案を作成できる。		
14. 草案作成および批評(2)	6	□ 担当教員から草案批評を受け、草案を改良できる。		
15. 草案作成および草案決定	3	□ 改良を重ねた草案を作品としてまとめる判断ができる。		
16. 課題作成(1)	6	□ 草案を提出版として作成することができる。		
17. 課題作成(2)	6	□同上		
18. 課題提出・	6	□ 作品を完成させ、期限までに提出することができ、効果		
プレゼンテーション・講評		的に発表することができる。また、担当教員の講評を聞		
		き、今後の課題として把握する。(非評価項目)		
〔教科書〕 建築製図 基本の	基本 村	嬰井良明 学芸出版社		
〔参考書・補助教材〕 プリ	ントほか	7		
(上海本) 18	7 >	3 = B = H (1 000 /)		

[成績評価の基準] レポート・ノート・課題提出(100%) -授業態度(上限20%)

〔本科(準学士課程)の学習教育到達目標との関連〕 3-c

〔教育プログラムの学習・教育到達目標との関連〕

[JABEEとの関連]

〔教育プログラムの科目分類〕

Memo

三人 4 年		学年・期間・区分	3年次 ・ 前期 ・ A群		
平成 27 年度 シラバ	バス	対象学科・専攻	都市環境デザイン工学科		
		担当教員	濵﨑 貢(Hamasaki, Mits	ugi)	
物理学基礎Ⅰ		教員室	一般科目棟2階光学実験	_	
(Basic Physics I)	(Basic Physics 1) E-Mail		m-hamasaki@samba.ocn.ne.		
教育形態/単位の種別/単位	数	講義 / 履修単位 /		51	
週あたりの学習時間と回数		〔授業(90分)〕× 15		する	
〔本科目の目標〕物理学のみ	ならず、	専門科目の基礎ともなる力学	 ≮を基本から学習する。1、2	2 年次に	学習した数学を活用し、
自然現象の本質を抽出する物	理的な	ものの見方、考えかたを身につ	つける。		
〔本科目の位置付け〕三角関	数、べク	トル及び微積分の基礎知識が必要	<u>必要である。本科目を修</u> 得す	れば初	等力学の基礎が身に付き、
習熟度により様々な力学現象					
		かん、演習問題等を通して積極的		っる。 1年	年次の教科書「力学Ⅰ」を
	伏況に応	ぶじて、演習として適宜平常テン	ストを課す。		
[授業の内容]					·
授業項目	時間数	授業項目に対す	广る達成目標	達成	予習の内容
1. 位置・速度・加速度	6	□ 微積分を用い、物体の位置 説明できる。	置・速度・加速度の関係性を		教科書p.8-p.24を読み、理解できなかった内容を把握しておき、例題・問題を解いておくこと。
2. 運動方程式と運動の 三法則	8	□ 運動法則を説明でき、力、力計算ができる。 □ 微分方程式を解く流れを説□ 一定の外力、重力、弾性力説明できる。 □ 空気抵抗が働く場合の落下□ 連結物体の運動など、具体□ 等速円運動を説明できる。	辿明できる。 力が働く場合の運動方程式を 下運動を説明できる。 的問題に対応できる。		教科書p.26-p.43を読み理解できなかった内容を把握しておき、例題・問題を解いておくこと。万有引力に関しては、参考図書・力学 I を復習しておくこと。
前期中間試験		-授業項目1~2の達成度を確	認する一		教科書 p.44-p.51を読み、解
3. 回転に関する運動方程式	4	□ ベクトルの外積を説明できる□ 角運動量および角運動量份□ 力のモーメントを説明できる	呆存則を説明できる。		できなかった内容を把握して おき、例題・問題を解いてお くこと。 教科書 p.52-p.61を読み、理
4. 座標変換と慣性力	6	□ 慣性系を説明できる。 □ 慣性力・遠心力を説明できる	ప .		解できなかった内容を把握し ておき、例題・問題を解いて おくこと。
5. 問題演習(随時)	4				
前期期末試験		-授業項目3~4について達成	度を確認する一		
試験答案の返却・解説	2	試験において間違えた部分を (非評価項目)。	:自分の課題として把握する		
〔教科書〕力学II(大日本図 〔参考書・補助教材〕力学I		図書)			
〔成績評価の基準〕中間及び	期末試懸	食(70%) +平常テスト(30%)			
〔本科(準学士課程)の学習	 教育至 	间達目標との関連〕 3-a			
〔教育プログラムの学習・教	育到達目	[標との関連]			

〔教育プログラムの科目分類〕 Memo

[JABEE との関連]

T-No. 1 7	»	学年・期間・区分	3年次 ・ 後期 ・ A群		
平成 27 年度 シラバ	バス	対象学科・専攻	都市環境デザイン工学科		
		担当教員	濵﨑 貢 (Hamasaki, Mits	ugi)	
物理学基礎Ⅰ	I	教員室	一般科目棟2階光学実験		
(Basic Physics II)		E-Mail	m-hamasaki@samba.ocn.ne.		
教育形態/単位の種別/単位	数	講義 / 履修単位 /	Ŭ	Jr .	
週あたりの学習時間と回数	2/4	〔授業 (90 分)〕× 15		する	
	たらず	専門科目の基礎ともなる力学			一学習した数学を活用し
		ものの見方、考えかたを身につ		2 7000	- 子自 じた 数子を 1日/17 じ、
		学習した質点の力学を発展させ		を扱う。	本科目に習孰すれば 様々
な力学現象への定量的応用能			- (Awak (1111 - 5 - 5 - 5 - 1 - 1	C1/2 7 8)
		ん、演習問題等を通して積極的	ー 内に自学する姿勢が重要であ	5る。14	
		びて、演習として適宜平常テン		/ 3 /0 -	100×0011E 701 I
〔授業の内容〕	V 10 7 0		,,,,,		
授業項目	時間数	授業項目に対す	ける達成月標	達成	予習の内容
	1111291	12/2/2017/19		2017	4 11 11 41
1. 仕事と力学的エネルギー	8	□ 仕事と仕事率を説明できる。			 教科書p.64-p.81を読み、理解
		□ 仕事とエネルギーの関係を			できなかった内容を把握して
		□ 位置エネルギー、運動エネ	いギーを計算できる。		おき、例題・問題を解いてお
		□ 保存力の性質を説明できる	00		くこと。
		□ 位置エネルギーと保存力の	D関係を説明できる。		
2. 二体系の力学	6	□ 二体系の重心を計算できる	00		教科書p.84-p.101を読み、理
		□ 重心の運動を説明できる。			解できなかった内容を把握し
		□ 運動量・運動量保存則を説	,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,		ておき、例題・問題を解いて
		□ 反発係数の定義を説明でき			おくこと。
		□ 角運動量・角運動量保存則	を説明できる。		
後期中間試験		ー授業項目1~2の達成度を確	観でする―		
3. 質点系の力学と剛体の	14	□ 質点系・剛体の重心を計算			教科書p.104-p.125を読み、理
力学		□ 質点系・剛体の並進運動・ 明できる。	四粒連動の連動力程式を説		解できなかった内容を把握し
			笛できる		ておき、例題・問題を解いておくこと。
		□ 回転の運動エネルギーを言			40/CC°
		□ 剛体に関して運動方程式を			
		- MITTOKO (X-33/3 H-40	1. E. 11 C. C. 00		
Λπ α π. μ. πι+πι+ ν.ν.		□ 坐下 □ 0 > - 1 \	<i>- יו</i> ריים ו		
後期期末試験		ー授業項目3について達成度を	ど作説する一		
試験答案の返却・解説	2	 試験において間違えた部分を	・自分の課題として把握する		
PWX台来V人区AP 为中机	2	(非評価項目)。	. 日月10月10日 C1日1年 9 日		
		(9) [11] [2] [17]			
L 〔教科書〕力学II(大日本図	⇒ -\				
[参考書・補助教材] 力学 [図書)			
〔成績評価の基準〕中間及び	期末試験	€(70%)+平常テスト(30%)			
〔本科(準学士課程)の学習	・教育至	達目標との関連] 3-a			
〔教育プログラムの学習・教	育到達目	標との関連]			
〔JABEE との関連〕					
〔教育プログラムの科目分類]				

Мето

平成 27 年度 シラバス	学年・期間・区分	3年次 · 通年 · A群
平成27年度 シノバス	対象学科・専攻	都市環境デザイン工学科
情報処理Ⅱ	担当教員	窪田 真樹(Kubota , Masaki)
「用 牧 处 珪 Ⅱ (Information Processing Ⅱ)	教員室	専攻科棟 1 階(TEL: 42-9116)
(Information Frocessing II)	E-Mail	kubota@kagoshima-ct.ac.jp
教育形態/単位の種別/単位数	講義・演習 / 履修単位	2 / 2 単位
週あたりの学習時間と回数	〔授業(90分)〕×30回	回 ※適宜,補講を実施する。

[本科目の目標] 高度情報化社会にあって情報処理技術の習得は必須事項となっている。本科目ではフローチャートの学習を通 じて、アルゴリズムやプロセスの考え方を、VBA for Excel を用いた学習を通じて、基本的なプログラミング知識およびその能力を 身につけることを目標としている。

[本科目の位置付け] 情報処理 I の授業内容の修得が必要である。設計製図関連の科目(基礎製図・構造物設計・橋梁設計)の基 礎となる科目である。また、本科目で修得するソフトウェアの操作方法は、工学実験や卒業研究などレポート・論文の作成には必 要不可欠である。

[学習上の留意点] 本科目は演習が主であるため、積極的に学習に取り組み、疑問点があれば、その都度授業担当者に質問し、 疑問点をその場で無くすこと。レポートは提出ルールや提出期限を厳守すること。また、課題で与えられているプログラムのパタ ーンを繰り返し、応用すること。

[授業の内容] 授 業 項 目 時間数 予習の内容 授業項目に対する達成目標 達成 1.情報工学基礎 1-1.2 進数と 16 進数 □ 2 進数と16 進数の概念を理解し、2 進数・10 進数・16 進 予め配付する資料と図書館 数の相互変換ができる。 の文献等で調べて、概略を 理解しておく。 1-2.論理回路と理論式 4 □ 論理式の内容を理解し、論理記号との対応ができる。 予め配付する資料と図書館 □ 入力値から論理回路を経た出力値を導くことができる。 の文献等で調べて、概略を 理解しておく。 1-3.フローチャート □ フローチャートで使用される記号と働きを理解できる。 左の項目について図書館の □ 簡単な構造(繰り返し・条件分岐含む)のフローチャート 文献やインターネット等を使 を読むことができる。 って調べて、概略を理解して □ 簡単な構造(繰り返し・条件分岐含む)のフローチャート おく。 を描くことができる。 ---前期中間試験---授業項目1について達成度を確認する。 2.プログラミング基礎 2-1. Excel と VBA の関係 □ マクロの記録・実行方法を理解し、実践できる。 2 □ VBA の起動・終了方法と理解し、実行できる。 □ VBA 構成画面の各部名称および機能を理解する。 2-2.プログラム開始と終了 □ マクロ名の命名ルールを理解し、Sub、End Sub を適切 2 に使うことができる。 □ 関数 Msgbox を使うことができる。 □ 引数の概念を理解できる。 □ 変数の概念を理解し、定数と共に適切に使うことができ [

□ 変数の型宣言を理解し、適切に指定することができる。

□ And、Not、Orを組み合わせ、複雑な条件式を設定する

試験において間違った部分を自分の課題として把握する。

>>> 次頁へつづく >>>

□ 代入文を理解し、適切に使うことができる。

□ If 文を理解し、適切に使うことができる。 □ 条件式を正しく設定することができる。

ことができる。

(非評価項目)

□ 算術演算子を理解し、適切に使うことができる。

授業項目 2-1~2-5 について達成度を確認する。

2-3.定数と変数

2-4.算術演算

2-5.条件分岐 1

---前期末試験---試験答案の返却・解説 4

2

2

[授業の内容]				
授業項目	時間数	授業項目に対する達成目標	達成	予習の内容
		>>> 前頁からのつづき >>>		
2-6.条件分岐 2	2	□ Select Case 文を理解し、適切に使うことができる。		
2-7.繰り返し文	6	□ For 文を理解し、適切に使うことができる。□ 繰り返しを制御する変数を活用したマクロを作成することができる。□ Do 文を理解し、適切に使うことができる。		
2-8.酉己歹门	4	□ Dim 文により配列・行列を適切に処理することができる。		
2-9.演習	2	□ 授業項目 2-2~2-8 を組み合わせて、仕事を満足させる。 短いマクロを作成することができる。		
後期中間試験		授業項目 2-6~2-9 について達成度を確認する。		
3. VBA for Excel 3-1.シートとセルの制御	6	□ オブジェクト・コレクション・メソッド・プロパティの概念を 理解し、VBAから Excel 上のシートやセルを制御する方 法を理解し、活用できる。		
3-2.土木・建築関連のプログラム作成	8	□ 目的に応じたプログラム作成に当たり、フローチャート を用いて構成の設計ができ、それを VBA プログラムとし て完成することができる。		
学年末試験 試験答案の返却・解説	2	授業項目3について達成度を確認する。 試験において間違った部分を自分の課題として把握する。 (非評価項目)		
〔参考書・補助教材〕 授	業時配布フ	BA プログラミング[第 5 版] 七條達弘・渡辺謙・鍛冶修 プリント(講義内容の要旨・ファイルを用意すること)		
		ば期末試験成績(80%) +レポートの成績(20%) -学習態	度(20%)	
「本科(準学士課程)の学習・意 「教育プログラムの学習・意 「JABEE との関連」 〔教育プログラムの科目分割	教育到達目			
Мето				

平成 27 年度 シラバス	学年・期間・区分	3年次・通年・A群
平成27年度 ジブバス	対象学科・専攻	都市環境デザイン工学科
推注·	担当教員	内谷 保 (Uchitani, Tamotsu)
構造力学 I (Structural Mechanics I)	教員室	都市環境デザイン工学科棟2階(TEL: 42-9125 事務室)
(Structural Mechanics 1)	E-Mail	
教育形態/単位の種別/単位数	講義 / 履修単位 / 2	単位
週あたりの学習時間と回数	〔授業 (90分)〕× 30	回 ※適宜,補講を実施する
「未利日の日挿〕排洗腸の部型、歩子によれ	ンプル ファク#*生物のねが	コントバ手がはサナ、レハア加提」でいくツ亜ボキュー提出力学

〔本科目の目標〕構造物の設計・施工においては、その構造物の静的および動的特性を十分に把握しておく必要がある。構造力学 は、特に静的な荷重によって構造物に生ずる応力度や変形を求める学問であるが、その中で構造力学Ⅰは力のつりあい条件のみを 用いて解析できる静定構造物の解析法を理解する。

〔本科目の位置付け〕物理や数学の基礎知識および応用力学の内容の理解が必要。また、本科目は構造力学Ⅱや鉄筋コンクリート 工学Ⅱ、鋼構造工学などの力学を取り扱う全ての科目に関連がある。

〔学習上の留意点〕講義では教科書に書かれていない内容にも触れるので、板書した内容は最低限ノートに書き取ること。

[授業の内容]

授 業 項 目	時間数	授業項目に対する達成目標	達成	予習の内容
1. 断面の諸量				教科書9章を読んでおく。
(1) 断面1次モーメント	3	□ 断面1次モーメントの定義と求め方が理解できる。		
(2) 重心	6	□ 断面の重心位置の求め方が理解できる。		
(3) 断面 2 次モーメント	5	□ 断面2次モーメントの定義と求め方が理解できる。		
(4) その他の諸量	2	□ 断面係数と断面2次半径の定義と求め方が理解できる		
前期中間試験		授業項目1に対する達成度を確認する。		
2. はりの応力度				 教科書 p.111-121 を読んでお
(1) 曲げ応力度	4	□ 曲げ公式の誘導過程が理解できる。		٠,
(2) せん断応力度	2	□ せん断公式の誘導過程が理解できる。		
3. はりのたわみ		_ =		教科書 10 章を読んでおく。
(1) たわみ曲線の微分	3	□ たわみ曲線の微分方程式の誘導過程が理解できる。		
方程式				
(2) モールの定理	3	□ モールの定理の成立する根拠が理解できる。		
V Ha I = ber				
前期末試験	_	授業項目2~3に対する達成度を確認する。		
試験答案の返却・解説	2	試験において間違えた部分を自分の課題として把握する		
464.		(非評価項目)		lu al a
4. 静定トラス	_	- A - Hard All III A Andrew		教科書 p.104-110 を読んでお
(1) 概要	2	□ トラス構造の特性が理解できる。		<₀
(2) トラスの部材力	6	□ 部材力の算定法が理解できる。		
(3) 部材力の影響線	6	□ 部材力影響線の描き方と特性が理解できる。		
後期中間試験		 授業項目4に対する達成度を確認する。		
5. 柱				 教科書 章を読んでおく。
(1) 概要	2	□ 柱の特性が理解できる。		
(2) 短柱	4	□ 偏心圧縮を受ける短柱の応力度分布特性が理解できる		
(3) 長柱の座屈理論	6	□ 座屈の定義とオイラーの座屈公式の誘導過程が理解		
(*) * * 1 · 1 · 1 · 1 · 1 · 1 · 1 · 1 · 1 ·		できる。		
6. 静定アーチと静定ラーメン				配布したプリントを読んでお
(1) 静定アーチ	1	□ アーチ構造の特性が理解できる。		<. □
(2) 静定ラーメン	1	□ ラーメン構造の特性が理解できる。		
後期末試験		授業項目5~6に対する達成度を確認する。		
試験答案の返却・解説	2	試験において間違えた部分を自分の課題として把握する		
		(非評価項目)		
〔教科書〕構造力学入門	平井一男	・他2名著 森北出版		
「参考書・補助数は〕プリン	Ь			

〔成績評価の基準〕定期試験成績 (80%)+小テスト(20%)

[本科 (準学士課程) の学習・教育到達目標との関連〕3-c
〔教育プログラムの学習・教育到達目標との関連〕
〔JABEE との関連〕
〔教育プログラムの科目分類〕

Memo

平成 27 年度 シラバス		学年・期間・区分	3年次 ・ 通年 ・ A 群		
平成27年度・シブ	<u>``</u>	対象学科・専攻	都市環境デザイン工学科	ザイン工学科	
水理学 I		担当教員	山内 正仁 (Yamauchi, Masahito)		
(Hydraulics I)		教員室	都市環境デザイン工学科	東3階((TEL: 42-9124)
(Trydiaulies 1)		E-Mail	yamauti@kagoshima-ct.ac.jp		
教育形態/単位の種別/単位	数	講義 / 履修単位 / 2	講義 / 履修単位 / 2 単位		
週あたりの学習時間と回数		〔授業(90分)〕×30[回 ※適宜、補講を実施す	トる	
〔本科目の目標〕 水に関す	る物理学	を用いた講義を行う。基本的な	な現象と理論の理解に努める	5.	
〔本科目の位置付け〕 本科	目は1年	~2 年次の数学、物理の内容を	十分に理解して受講する必	要がある	。また本科目は水理学Ⅱ、
水理学実験、環境工学I、河					
		生、5 年生で学習する水道や7			
	基礎を十	分に身につける必要がある。	学習内容をよく理解するため	りに、必	ず各自復習すること。
〔授業の内容〕				1	
授業項目	時間数	授業項目に対す	ける達成目標 ニューニー	達成	予習の内容
1. 単位と次元	2	□ 物理量を扱うときの単位を正しく表記できる。			p.104-p.107 の内容につい て、教科書を読んで内容を把
					握しておく。
2. 水の物理的諸性質	4	□ 基本的な物理用語(水の名 係数・動粘性係数、圧縮性と 接触角)を説明できる。			p.1-p.6 の内容について、教 科書を読んで概要を把握し ておく。
3. 静水圧の性質	8	「接触用」を説明できる。 □ 液体の分子運動と圧力、水圧と全水圧、1点における水			p.7-p.11 の内容について、教
J. [1]/1/21/11/24	Ü	E、水圧と水深、圧力水頭、水圧計、パスカルの原理について理解できる。			科書を読んで概要を把握しておく。
前期中間試験		授業項目 1~3 について達成	度を確認する。		
4. 平面に作用する全水圧	7	□ 水平な平面、鉛直な長方形 に作用する全水圧とその作 算できる。	ジ平面、傾斜した長方形平面 用点の求め方を理解し、計		p.12-p.15 の内容について、 教科書を読んで概要を把握 しておく。
5. 曲面に作用する全水圧	4	□ テンダーゲートのような曲面とができる。	新に作用する水圧を求めるこ		事前に配布されるプリントや 補助教材で概要を把握する。
6 浮力と浮体	3	□ アルキメデスの原理を理解できる。 浮体の安定条件の 調査方法を理解できる。			p.15-p.16 の内容について、 教科書を読んで概要を把握 しておく。
前期期末試験		授業項目4~6について達成	度を確認する。		0 (40 %)
試験答案の返却・解説	2	試験において間違えた部分を (非評価項目)	自分の課題として把握する		
7. 流速と流量	4	□ 流積、潤辺、径深、平均流 明できる。	速、流量の意味を理解し、説		p.19-p.20 の内容について、 教科書を読んで概要を把握 しておく。また事前に配布さ れるプリントや補助教材で概 要を把握する。
8. 流れの種類	8	□ 管水路と開水路、定常流と 流と乱流、常流と射流の語句 る。			p.21-p.23 の内容について、 教科書を読んで概要を把握 しておく。また補助教材等で 流れの特性を把握する。

>>> 次頁へつづく >>>

〔授業の内容〕							
授 業 項 目	時間数	授業項目に対する達成目標	達成	予習の内容			
		>>> 前頁からのつづき >>>					
9. 流れの連続性	2	□ 質量保存の法則の関係から得られる連続の式を理解 できる。		p.25-p.26、p.34-p.38 の内容に ついて、教科書を読んで概			
後期中間試験		授業項目7~9 について達成度を確認する。		要を把握しておく。			
10. ベルヌーイの定理	6	□ 完全流体のおけるベルヌーイの定理を理解し、この定理をオリフィス、ベンチュリー計、ピトー管に応用できる。		p.26-p.28 の内容について、 教科書を読んで概要を把握 しておく。また補助教材等で 応用例を把握する。			
11. 運動量の法則	2	□ 静止平面、傾斜平面に働く噴流の力を理解できる。		p.28-p.32 の内容について、 教科書を読んで概要を把握 しておく。			
12. 損失水頭	6	□ 損失水頭を理解し、ベルヌーイの定理を利用できる。また、摩擦損失水頭(ダルシーワイスバッハの式)と平均流速公式(シェジーの公式、ガングレークッターの式、マニングの式)を理解できる。		p.40-p.43 の内容について、 教科書を読んで概要を把握 しておく。また補助教材等で 平均流速公式を把握する。			
後期期末試験		授業項目 10~12 について達成度を確認する。					
試験答案の返却・解説	2	試験において間違えた部分を自分の課題として把握する (非評価項目)					
〔教科書〕 やさしい水理学	和田明	月,遠藤茂勝,落合実 森北出版					
		芝 玉井信行 他3名 オーム社					
〔成績評価の基準〕 中間・期末試験成績(100%) - 授業態度(最大 10%)							
[本科(準学士課程)の学習・教育到達目標との関連] 3-c							
〔教育プログラムの学習・教育到達目標との関連〕 「IADER LOURE」							
〔JABEE との関連〕 〔教育プログラムの科目分類〕							
Memo							

平成 27 年度 シラバス	学年・期間・区分	3 年次 ・ 通年 ・ A 群			
平成27年度・ジノバス	対象学科・専攻	都市環境デザイン工学科			
土質力学	担当教員	酒句 一成(Sako , Kazunari)			
(soil mechanics)	教員室	都市環境デザイン工学科棟2階(TEL: 42-9125 事務室)			
	E-Mail	sako@oce.kagoshima-u.ac.jp			
教育形態/単位の種別/単位数	講義 /履修単位/ 2単	单位			
週あたりの学習時間と回数	〔授業(90分)〕×30回	回 ※適宜,補講を実施する			
「木利日の日博」 トゴ構造物(建筑物、橋沙笙)を設計施工するために トゴ構造物に適した地般を選定するいけ地般の自し					

〔本科目の目標〕 上部構造物(建築物、橋梁等)を設計施工するために、上部構造物に適した地盤を選定あるいは地盤改良し、 適切な設計施工する土質(地盤)の知識を習得する。本講義では特に土の性質と変形と強さに関して習得する

[本科目の位置付け] 本科目では数学、物理、化学、応用力学などの知識を用いて、構造物の支持地盤、材料としての土の基本的な性質を学ぶ。ここで学んだ内容は4年に開講される地盤の問題を工学的に扱うための基礎的科目である

〔学習上の留意点〕講義と演習を行いながら学習を進めることを基本とする。基本的な数学、応用力学をよく理解して授業に臨むこと。用語や定義式の暗記、あるいは式の誘導を通して力学的背景を理解する。

[授業の内容]						
授業項目	時間数	授業項目に対する達成目標	達成	予習の内容		
1. 土の基本的性質 (1) 概説 (2) 土の物理量 (3) 土の工学的分類 (4) 土の締固め (5) 地盤内応力の定義 -前期中間試験-	2 4 2 4 2	□ 土質力学の概要、土の定義、土の生成を理解できる □ 土粒子、物理的性質、物理量相互関係が理解できる □ コンシステンシー限界、土の工学的分類が理解できる □ 土の締固め特性と工学的利用が理解できる □ 有効応力の原理を理解し、鉛直応力と水平応力を求めることができる。 前期中間試験以前の学習内容について達成度を確認する		pp.1-19 pp.18-28、pp.28-43 pp.207-p.214 pp.207-214 pp.75-79 と予め配付する資料を読み、理解しておく		
 地盤内の水の流れ (1) 概説 (2) 飽和地盤の水の流れ (3) 流線網と浸潤線 (4) 浸透流と浸透水圧 3. 地盤内の応力 	2 4 2 2	□ 地盤内の間隙水圧、毛管作用、凍上現象が理解できる□ 浸透流、室内・現場透水試験、地盤の透水係数、流量計算が理解できる□ 流線網を使って流量計算ができる□ 全応力、有効応力、間隙水圧、過剰間隙水圧の相互関係を理解し、現象を理解する。		pp.44-55 pp.55-62 pp.62-67 pp.67-74 と予め配付する資料を読 み、理解しておく		
(1) 上載荷重による応力-前期末試験-答案の返却・解説	2	□ 地盤内に発生する応力の計算ができる □ 集中荷重、線荷重による地盤内の応力が理解できる 前期中間試験以降の学習内容について達成度を確認する 試験において間違えた部分を自分の課題として把握する (非評価項目)		pp.79-83 pp.83-94		
 任密と地盤沈下 (1) 圧縮と圧密 (2) 圧密の時間的経過とその理論 (3) 圧密沈下量、沈下時間の計算 (4) 圧密試験と整理法 	4 2 4 4	 □ 圧密試験に関する諸量、圧密降伏応力、正規圧密と 過圧密を知っている。 □ テルツァギの一次元圧密理論、有効応力と過剰間隙 水圧が理解できる □ 沈下量と沈下時間の計算ができる □ 圧密試験による圧縮係数など圧縮定数を求めること ができる 		pp.103-109 pp.109-113 pp.120-125 pp.114-120 と予め配付する資料を読		
後期中間試験		後期中間試験以降の学習内容について達成度を確認する >>> 次頁へつづく >>>		み、理解しておく		

〔授業の内容〕							
授 業 項 目	時間数	授業項目に対する達成目標	達成	予習の内容			
		>>> 前頁からのつづき >>>					
5. 土のせん断強さ(1) 主応力とモールの応力円(2) 土の破壊と強さ(3) 土のせん断試験(4) ダイレイタンシー(5) 粘性土のせん断特性	4 2 2 2 4	 □ モールの応力円を土質力学の問題へ活用できる。 □ せん断応力とせん断破壊が理解できる □ 土のせん断強度を得るための試験方法を知る。 □ せん断変形に伴う体積変化について知る。 □ 各排水条件の異なる三軸圧縮試験による粘性土のせん断特性が理解できる。 		pp.94-102 pp.128-137 pp.128-137 pp.140-142 pp.137-140 と予め配付する資料を読み、理解しておく			
学年末試験 答案の返却・解説	2	後期中間試験以降の学習内容について達成度を確認する試験において間違えた部分を自分の課題として把握する					
(**************************************	+ r	(非評価項目)					
〔教科書〕土質工学 コロナ 「参考書・補助教材〕+質力:		森北出版、演習例題新版土質工学					
		株化山瓜、 供自 PJRESTINX					
〔本科(準学士課程)の学習 〔教育プログラムの学習・教 〔JABEE との関連〕 〔教育プログラムの科目分類	・教育郅 育到達目	達目標との関連] 3-c					
Мето							

		学年・期間・区分	3年次 · 通年 · A群			
平成 27 年度 シラバス		対象学科・専攻	都市環境デザイン工学科			
		担当教員	池田 正利 (Ikeda , Masatoshi)			
鉄筋コンクリート工学 I		教員室	都市環境デザイン工学科棟2階 (TEL: 42-9120)			
(Reinforced Concrete Engineering I)		E-Mail	m ikeda@kagoshima-ct.ac.jp			
教育形態/単位の種別/単位	<i>₩</i>					
週あたりの学習時間と回数	XX.		講義 / 履修単位 / 2単位 「授業 (90分) 〕×30回 ※適宜,補講を実施する			
	711 l σ	(3.5)(1.1.1.7)			た学が また 創み引	
〔本科目の目標〕 鉄筋コン: 張鉄筋の設計法の理解を深め,			b形はり・T 形はりについてそ チホネスできることを日標とせる	の取託伝	を子い、また、斜めら	
			Tができることを目標とする。 6。弾性的性質をもつ鉄筋と弾	治田小十七七小十	断われのコンカリート	
が構造物として成り立つ理由)。 7年1年7月1年貝でも、79次別で7月	经过于620年	貝をもフュングリート	
			設計計算例題を取り入れ、実	際の構造	物の配館状況等の把据	
に努める。	, , , , ,	* > N I エ E / 五 升	KITH THOSE WY // WG S		100 × 2 H C U W (V C + 1 × 2) T C V T	
〔授業の内容〕						
授業項目	時間数	授業項目に名	 する達成目標	達成度	予習の内容	
以 未 久 日	时间数	12未7月日(これ)	リック圧)以口伝	建双支	1, Eost 14	
1. 構造物設計の概要	2	□ コンカリート構造物の定義	髪と種類,各設計法のあらまし		pp. 1-20 の教科書を読	
1. 将起物放削 / 外处	2	について理解し、説明でき			んで概要を把握してお	
	2	□ 性質と材料, 設計上の規			く。	
2. 曲げに対する断面算定	4	□ 計算上の基本仮定(許容)			pp. 194-202 の教科書を	
	6		単鉄筋長方形断面の断面算定		読んで概要を把握して	
	-	ができる。			おく。	
前期中間試験		授業項目1~2について達成	度を確認する。			
	6	□ 単鉄筋T形断面の断面算	定ができる。			
	4	□ 複鉄筋長方形断面の断面	節定ができる。		pp. 202-204 の教科書を	
	4	□ 複鉄筋T形断面の断面算	定ができる。		読んで概要を把握して	
					おく。	
前期期末試験		授業項目2について達成度を	業項目2について達成度を確認する。			
答案の返却・解説	2	試験において間違った部分				
		る (非評価項目)。				
3. せん断に対する断面算定	6	□ せん断応力と主応力につ				
	8	□ 単鉄筋T形断面において腹鉄筋の配置を設計ができ pp. 204-214 の				
		る。				
A III I HH- bea			-1		おく。	
後期中間試験		授業項目3について達成度を	確認する。		to de la	
A No. Arthur S 2- 17 1 1-2-			Eleman Svool - lea		pp. 60-70 の教科書を読	
4. 鉄筋コンクリート柱	4	□ 設計上の示方書規定事項			んで概要を把握してお	
(1) 帯鉄筋柱	4	□ 帯鉄筋柱の断面算定,応□ とはり鉄を対った			<.	
(2) らせん鉄筋柱 5. スラブ	4 2	□ らせん鉄筋柱の断面算定	デルスクランでは、 デンを理解し、設計手順を説明		配布したプリントを読ん	
り、 ハ ノノ	2	できる。	/ノと理解し, 武司 子順を説明		で概要を把握しておく。	
		(500			(例女で1口)座してわく。	
後期期末試験		授業項目4~5について達成	 			
答案の返却・解説	2		を自分の課題として把握す			
1)K->×C>F // WC	2	る(非評価項目)。				
つくがいはいますが、 1 1 1 1 1 1 1 1 1						
〔参考書・補助教材〕 適宜プリントを配布する						
[成績評価の基準] 中間試験および期末試験成績						
「本科(準学士課程)の学習教育到達目標との関連) 3-c						
[教育プログラムの学習・教						
〔JABEEとの関連〕	n	- 1/4//				
〔教育プログラムの科目分類						
Мето						

Memo

平成 27 年度 シラバス		学年・期間・区分	3年次 · 通年 · A群			
		対象学科・専攻	都市環境デザイン工学科			
建築計画		担当教員	岡松 道雄 (Okamatsu, Michio)			
(Planning and Programn	ning for	教員室	都市環境デザイン工学科		(TEL: 42-9122)	
Architecture)	C	E-Mail	okamatsu@kagoshima-ct.ac	jp		
教育形態/単位の種別/単位	数	講義 / 履修単位 / 2	講義 / 履修単位 / 2単位			
週あたりの学習時間と回数	~ -	〔授業(90分)〕×30回		る		
[本科目の目標] 建築を設	計する前	段として、建物のコンセプトカ	いら所要室の規模・数、さら	には詳	細の考え方にいたるまで、	
さまざまな「計画」が必要と	なる。前	半は「形」の背景にある要因と	:人間の知覚といった建築計	画学の	基礎を、後半はその応用と	
して計画のプロセス学ぶとと	もに、建	築計画とは何か、その役割を理	上解し記述できることを目標	票とする。)	
		るに当たり、造形やデザインの能			_	
る。本講義は建築技術者として	必要な計	画能力の基礎を養うと同時に、建	物の形態に対する理解力を	養う機会	として位置づける。また、3	
		構座のひとつであると同時に、卒				
		式で行う。講義の内容は、広範				
		である。特に自然環境・歴史・				
		専門書以外に関連する上記分野				
	築の技術	面だけでなく、人間の根本的な	☆行動や目然の原理にまで立	「ち返っ」	て理解するように努める。	
[授業の内容]			and the last			
授業項目	時間数	授業項目に対す		達成	予習の内容	
1. 空間の形態	8	□ 建物や空間の形態が、どの			教科書第 1 章について概要	
ーかたちは何で決まるかー		について、地理的環境・機能			を把握しておく。	
		性・美しさ・象徴性・法規な			tel (s) the same of the same	
2. 人間の知覚と行動	6	□ 心理学や人間行動学を基に	2、		教科書第2章について概要	
스웨스 등 미리 - 마니 - 나는		方を記述できる。	THA77 中ナーアクラス・トーフ		を把握しておく。	
一 前期中間試験 一		授業項目1・2について達成度				
		試験において間違った部分を る。(非評価項目)	目分の課題として指揮す			
3. 寸法と規模の計画	8	る。(外計画項目) □ 人間のサイズ・ヒューマン	ノフケールと建筑の土法体		 教科書第3章について概要	
3. 引伝乙烷(英0万) 画	0	系を記述できる。	ハク ルと建築の竹伝座		を把握しておく。	
4. 空間の性能	6	□ 建築空間の性能を、安全性	上。待生性,機能性,快適		教科書第4章について概要	
4. 王田小川工作		性・経済性・サステイナビ			を把握しておく。	
		できる	ク / - 1 - な C * 2 時間 M/V - 2 自己と		C10140 (40 (8	
前期末試験		授業項目3~4について達成度	・理解度を確認する。			
答案返却・解説	2	試験において間違えた部分を				
		る。(非評価項目)。				
5. 計画技法	14	□ 複雑な要素が絡み合う建築	空間の計画を進めるため		教科書第 5 章について概要	
5-1計画のプロセス	(2)	のプロセスと技法、そして空	空間を構成するエレメント		を把握しておく。	
5-2空間構成の技法	(4)	を理解し記述できる。				
5-3空間構成のエレメント	(6)					
計画技法まとめ	(2)	授業項目5について達成度・理	1解度を確認する。			
— 後期中間試験 ——		試験において間違った部分を	自分の課題として把握す			
		る。(非評価項目)				
6. 外部空間の構成と	8	□ 外部空間のもつ意味と構成	対手法を記述できる。		教科書第 6 章について概要	
配置計画					を把握しておく。	
7. 建築の設計製図ー計画の	4	□ 優れた建築作品の図面を参	発照しながら計画の表現方		教科書第7章について概要	
表現		法について記述できる。	7+ MM/ V V V V V V V V V V V V V V V V V V		を把握しておく。	
8. 建築計画まとめ	2	□ 建築計画全般のまとめをま			教科書の概要を再度確認し	
Δ 114 		る計画学の役割を記述でき	- 0		理解を深める。	
後期末試験 答案返却・解説	0	授業項目5~8について達成度 試験にないて関連されない				
	2 \$\$\$Læi1	試験において間違えた部分を理解している。				
		」(新版)岡田光正、柏原士郎 設計」芦原義信著 - 彰国社	、採田孝大はか共者 鹿島	工版会		
〔成績評価の基準〕 中間試	験およひ	期末試験成績 (70%) + レポー	- ト (30%) - 授業態度 (上	:限20%)		
[本科(準学士課程)の学習教育到達目標との関連〕 3-c						

〔教育プログラムの学習・教育到達目標との関連〕

〔JABEEとの関連〕

〔教育プログラムの科目分類〕

Мето